

平成30年11月11日

東京鰐陵会総会

# 石巻市震災復興基本計画

～最大の被災都市から

世界の復興モデル都市石巻を目指して～

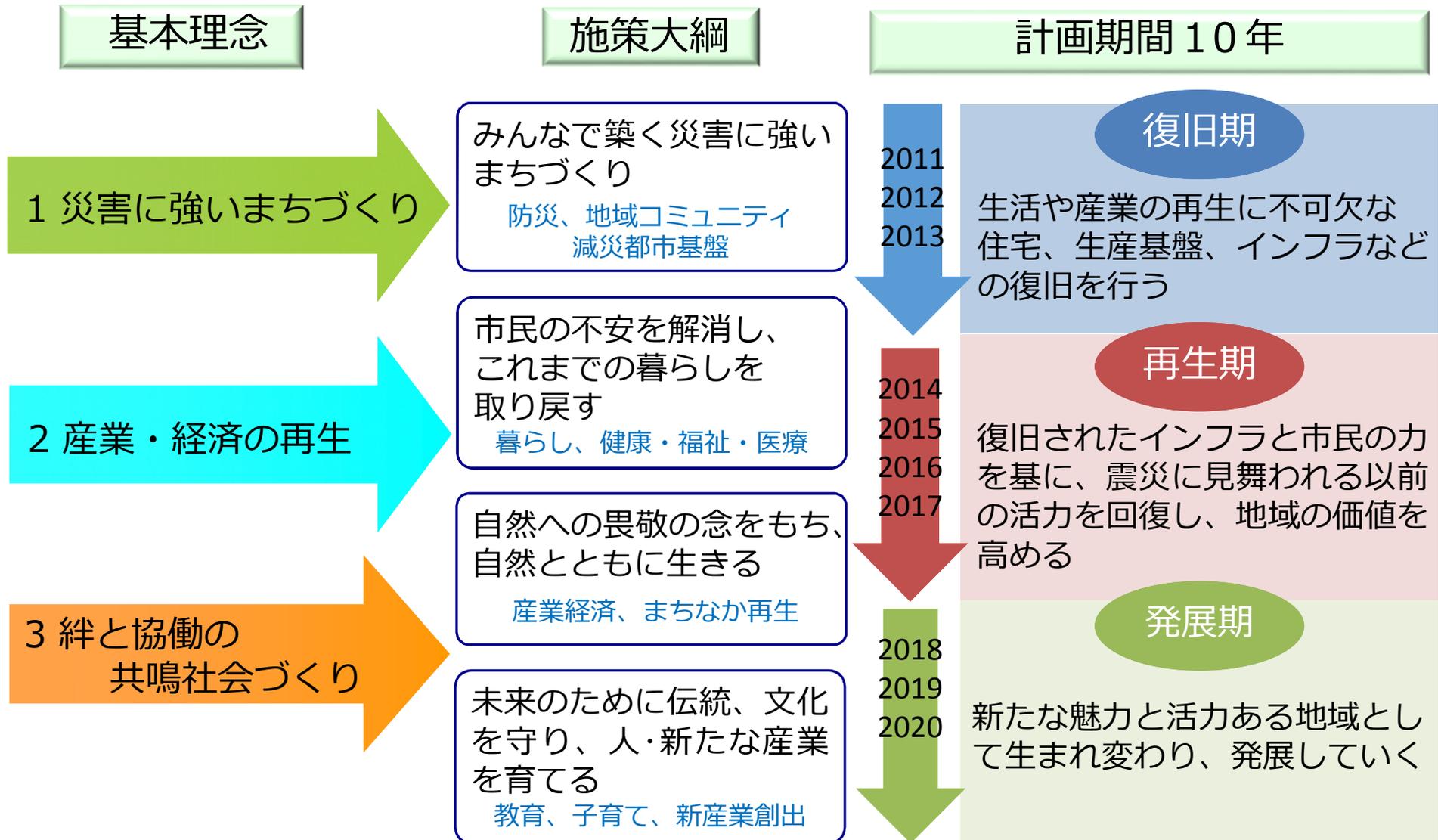
## 実現状況の検証

石巻市長・亀山紘

# 石巻市震災復興基本計画



2011年12月に、復興の基本的な考え方や今後の復興に関する施策の展開、地区別の整備方針など10年間の復興に向けた道標として策定



# 震災復興計画

## 1. 市民の暮らしの再生

- ・住まいの再建  
(防災集団移転促進事業、  
区画整理事業、災害公営住宅整備事業など)
- ・石巻駅周辺津波復興拠点整備事業
- ・複合文化施設整備事業 ・市街地の優良建築物等補助事業
- ・南浜津波復興祈念公園整備事業
- ・石巻市立病院、石巻市夜間急患センター建設事業

## 2. 災害に強いまちづくり

- ・河川堤防の整備 ・海岸保全施設整備事業
- ・水辺の緑のプロムナード整備事業
- ・石巻市総合防災公園の整備 ・消防署所再編整備事業
- ・防災緑地整備事業 ・エコ・セーフティタウン事業
- ・避難道路、避難施設の整備(避難タワー、避難ビルなど)
- ・防災センターの整備 ・防災マリーナ整備事業

## 3. 産業の再生と人材育成

- ・石巻市水産物地方卸売市場の整備
- ・次世代施設園芸導入加速化支援事業
- ・担い手センターの整備 ・テレワーク事業
- ・かわまち交流拠点整備事業
- ・雄勝、北上、牡鹿地区拠点エリア整備事業

## 4. 子育てしやすい環境づくり

- ・「子育て世代包括支援センター」の体制づくり
- ・「石巻版父子手帳」の配布
- ・門脇・大街道、渡波、雄勝保育所の建設
- ・放課後児童クラブの施設整備
- ・子ども医療費助成事業
- ・生活困窮世帯の子供の学習支援事業
- ・サイエンスラボ事業
- ・家庭教育学級解説事業

## 5. 絆と協働の共鳴社会づくり

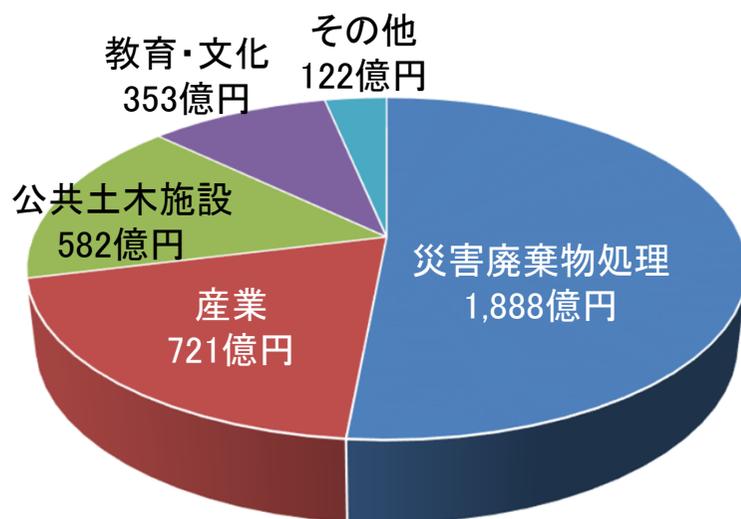
- ・地域包括ケアの推進 ・コミュニティ形成支援事業
- ・復興公営住宅コミュニティ促進事業、地域づくり  
コーディネーター事業、奨学金返還支援事業

## 復旧・復興にかかる事業費

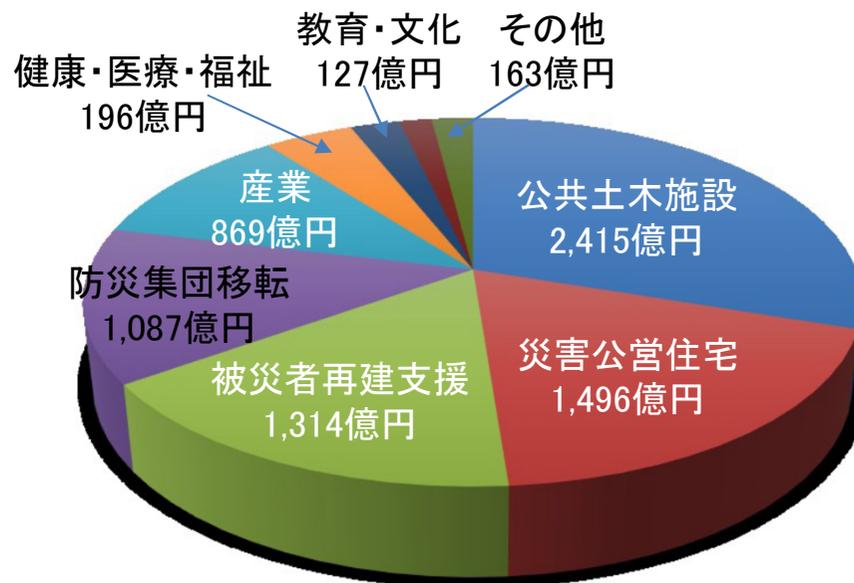
復旧・復興にかかる主な事業費の総額は約1兆2,133億円を予定しています。震災前（平成23年度）の石巻市の一般会計歳出予算は617.5億円であり、市の一般会計予算のおよそ20年分に相当します。

### 復旧・復興事業費 総額約1兆2,133億円

○復旧事業費約3,666億円

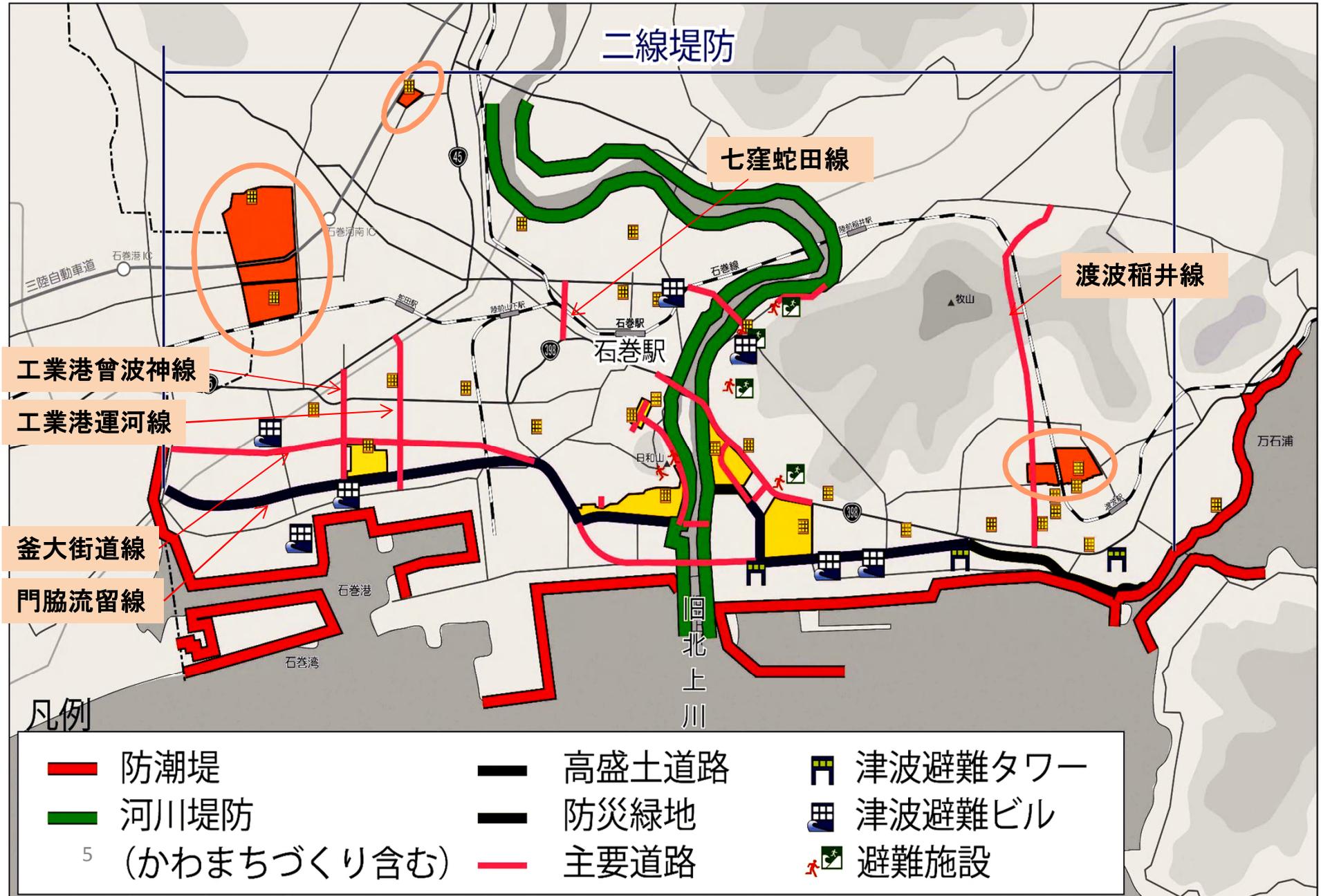


○復興事業費約8,018億円



※事業費は、復旧・復興事業費調査(平成30年3月実施)に基づくもの

# 災害に強いまちづくり(防災基盤整備事業)



# 東日本大震災の復興状況1



○住まいの復興(いずれも平成30年3月末現在)

- ・復興公営住宅:市街地部で3,843戸(計画戸数:3,883戸)、  
半島部で573戸(計画戸数:573戸)が完成 →(計)4,416戸 進捗率99.1%
- ・防災集団移転:市街地部の宅地引渡し戸数 852戸  
半島部の宅地引渡し戸数 612戸
- ・区画整理:新市街地6地区で、1,360区画(計画数:1,360区画)が完成 → 供給率100%  
既成市街地5地区で、1,032区画(1,162区画)が完成 →供給率89%



# 東日本大震災の復興状況2 市街地の復興状況



住まいの再建を復興の最優先課題とし、  
高盛土道路から内陸部のエリアに住民の  
意向を踏まえた土地区画整理事業を推進



2011



2017

## 新蛇田地区



日々変わり続ける新蛇田地区の街並み



四季の並木道



せせらぎの小径



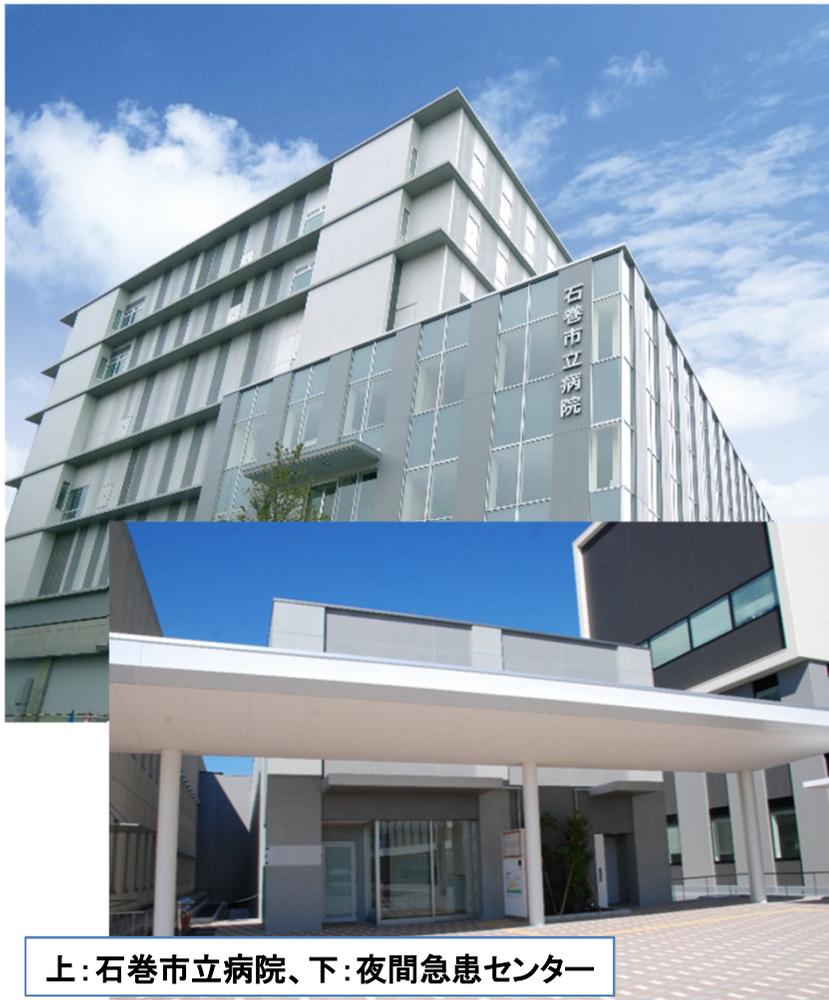
水辺の空間

# 東日本大震災の復興状況4



## ○被災した地域医療・福祉・教育施設の再生

- ・平成28年9月：石巻市立病院開院、同年12月：夜間急患センター開業
- ・平成28年12月：3保育所(釜・渡波・雄勝)完成、平成29年4月開所
- ・平成29年3月：渡波中学校、平成29年7月：雄勝小学校・中学校 移転新築校舎完成



上：石巻市立病院、下：夜間急患センター



▲ 子育て支援センターを併設した渡波保育所



渡波中学校

# 東日本大震災の復興状況3 半島沿岸部の復興状況

宅地造成

46地区65団地が2017年度中に全て完成

復興公営住宅

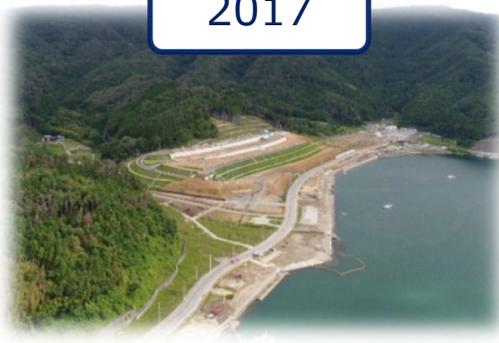
半島部の復興公営住宅、2017年度中に573戸完成（進捗率100%）

雄勝地区

2011



2017



2020



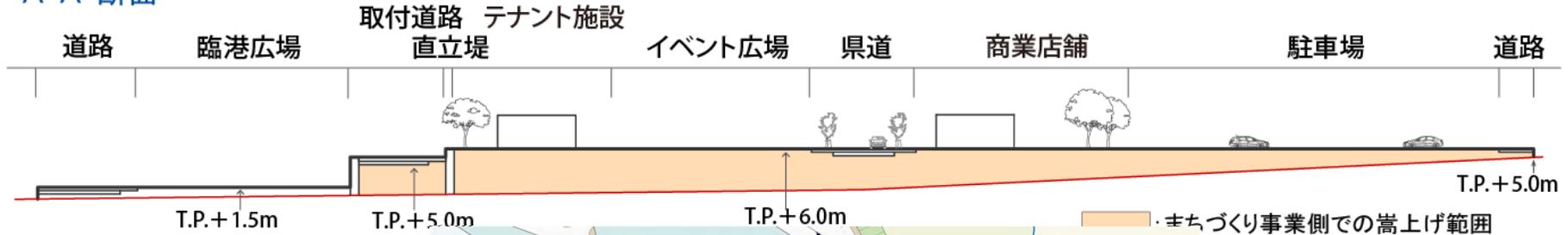
北上地区



牡鹿地区



A-A' 断面



個人商業店舗群  
 仮想敷地面積3,069<sup>3</sup>  
 希望分2,028<sup>3</sup>  
 保留分1,041<sup>3</sup>

商業者テナント施設  
 仮想敷地面積3,525  
 延床面積960<sup>3</sup>  
 内専有 792<sup>3</sup>  
 (北430<sup>3</sup> 内専有313<sup>3</sup>)  
 (中280<sup>3</sup> 内専有247<sup>3</sup>)  
 (南250<sup>3</sup> 内専有231<sup>3</sup>)

多目的広場  
 敷地面積2,823<sup>3</sup>

イベント広場  
 敷地面積693<sup>3</sup>

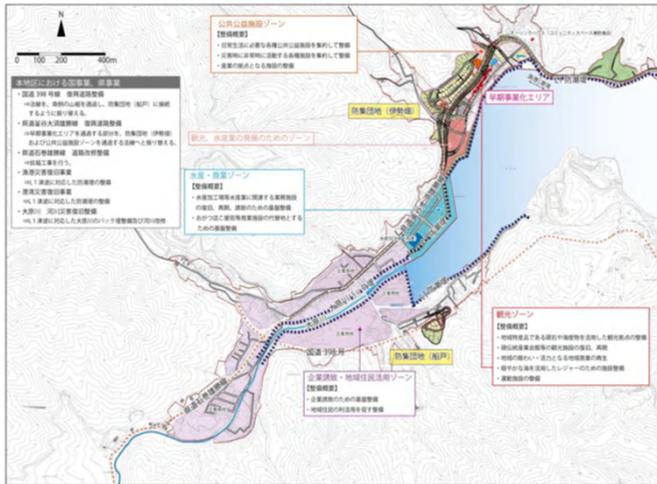
駐車場  
 敷地面積5,010<sup>3</sup>  
 駐車台数  
 普通125台  
 大型 6台

ビジターセンター  
 仮想敷地面積1,560<sup>3</sup>  
 延床面積519<sup>3</sup>

おしかホエールランド  
 仮想敷地面積3,371<sup>3</sup>  
 延床面積1,230<sup>3</sup>



# 牡鹿地域 拠点づくり



# 水産業の復興



○世界三大漁場の一つに数えられる金華山沖漁場に近く、豊富な種類の魚介類が水揚げされる**水産資源の宝庫**、カツオ、サバ、ギンザケを金華ブランド化、金華寿司、金華丼など

○石巻魚市場の後背地は水産加工業及び冷蔵冷凍倉庫等が集積し、水産都市石巻を形成。内陸部における農業、半島沿岸部における養殖漁業など、第一次産業が盛んな地域。



石巻市水産物地方卸売市場(全長876m)

石巻魚市場でのセリの様子



金華寿司

【漁港数】 44漁港(58箇所) <全国3位>

【漁業経営体数】757経営体 <全国12位>(震災前1,297 <全国6位>)

【漁業就業者数】 2,107人 <全国6位>(震災前3,363人 <全国2位>)

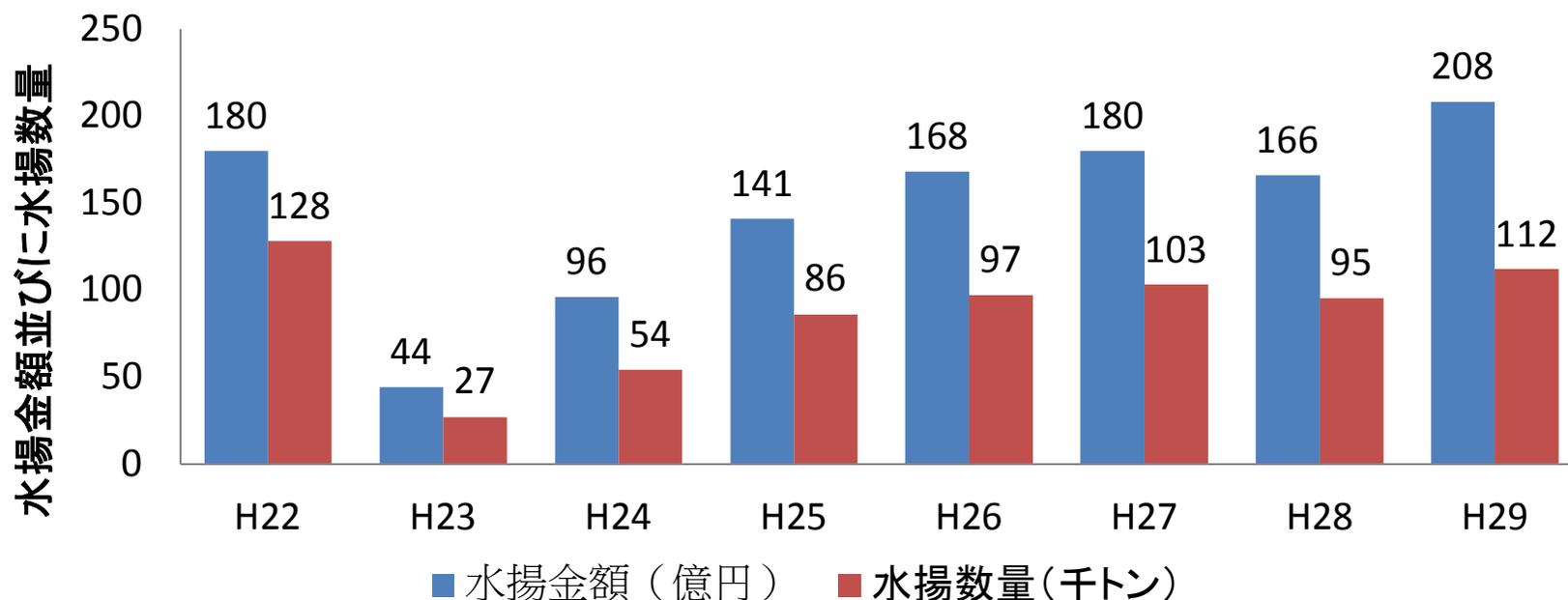


# 石巻市水産加工団地(魚町)の再開状況

	水産加工業及び 冷蔵倉庫等	その他関連事業	合 計
震災前の企業数	84社	123社	207社
再開した企業数	58社	62社	120社
新規稼働企業	1社		1社
割合 (%)	69.0% (70.2%)	50.4%	58.0% (58.5%)

## 水産物地方卸売市場の水揚状況

(石巻売場：1月～12月)



焼津 水揚げ数量 154千トン(全国2位) 水揚げ金額 516億円(全国1位)

# 国際拠点港湾いしのまきの復興



- 石巻港(仙台塩釜港石巻港区)の背後地を中心とした第二次産業群が集積。
- 紙・パルプ・木材関連、飼肥料等のバルク貨物における東北の物流拠点であり、圏域住民の多くが働く雇用の場である。

東日本大震災に伴う災害復旧事業の内、宮城県の港湾関係で第1号となる“石巻港雲雀野地区航路・泊地(-13m)浚渫工事”が完成し、大型船舶が支障なく航行することが可能になる。

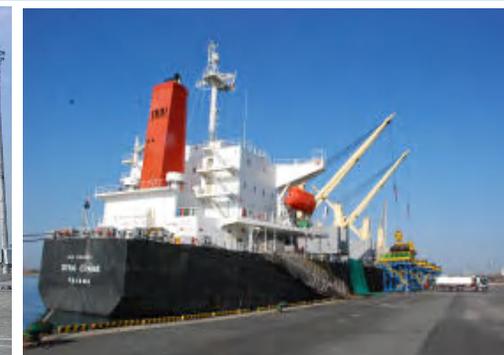
H23.7 穀物船入港再開 H23.9 石炭船入港再  
港再 H23.11 木材チップ船入港再開

## 石巻港臨港地区立地企業

- ①木材、木製品製造業7社
- ②パルプ、紙、紙加工製造業6社
- ③食品、飼肥料製造業11社
- ④運輸、倉庫、付帯サービス19社
- ⑤鉄鋼、金属、機械器具等15社



石炭積載の大型貨物船が震災後初入港(平成23年9月10日)



5万トン石炭船入港 大型船の積載量制限解除(平成23年11月29日)

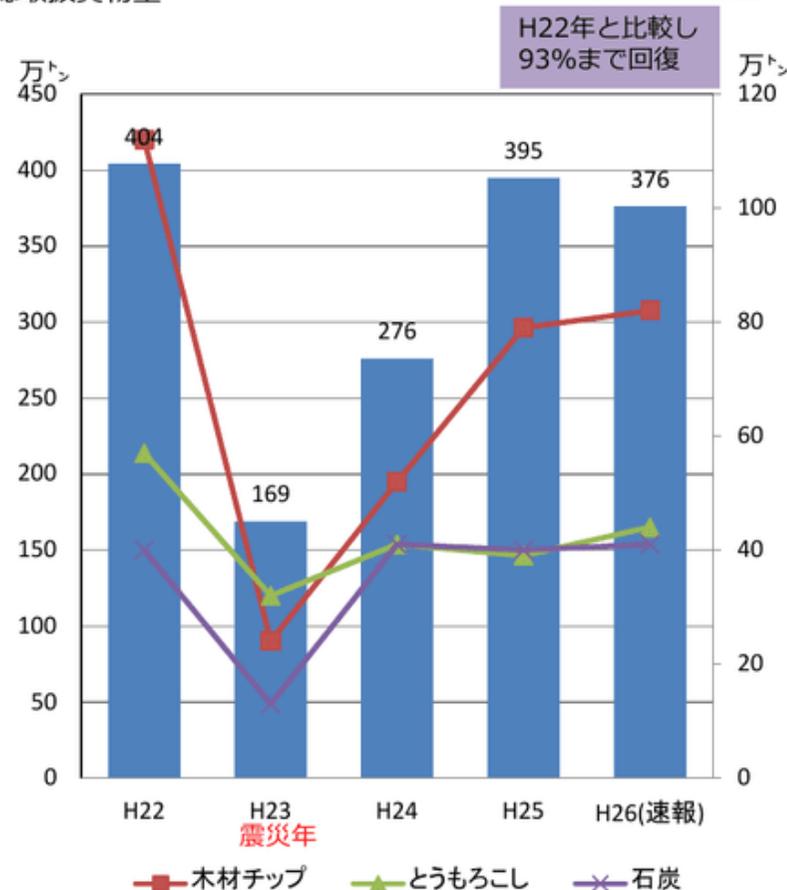


# 仙台塩釜港(石巻港区)における取扱貨物量の推移

- H26年の取扱貨物量は376万トであり、震災前のH22年と比較し93%と震災前の水準に概ね回復。
- 要因は、製紙原料の木材チップと火力発電用燃料の石炭が順調に回復中。

総取扱貨物量

品目別取扱貨物量



【出典:宮城の港湾統計】

## 石巻港における主要荷主のコメント ＜日本製紙(株)石巻工場＞

### 【取り扱い貨物の回復要因】

東日本大震災から約4年経過し、港湾施設として岸壁やふ頭用地等が復旧され、当社が製造する製紙の原料である木材チップ及び燃料である石炭の取扱量も回復傾向にある。

今後は、従来事業に加え、平成30年3月稼働開始予定のバイオマス発電も含め、石巻地域の復興にも寄与できるよう目指していきたい。

### 【港湾に対する要望】

荷役作業等においては、安全・安心、ならびに使いやすい港として、港内の静穏度を早急に図ってほしい。



## 1. 津波復興拠点を核とした地域包括ケアの展開

- ① 次世代型地域包括ケアシステムの構築
- ② JR石巻駅周辺の津波復興拠点化

## 2. かわまちづくりと連動した賑わいと安らぎのある、 歩いて暮らせるまちづくりの推進

- ① 中心市街地の商業・観光拠点づくり
- ② 被災元地活用による安らぎのあるまちづくり

## 3. 文化芸術活動の推進による人との豊かなふれあいと、 歴史的資源を活かした安らぎのある空間づくりの推進

- ① 文化芸術活動の推進・活性化
- ② 歴史と文化が薫るまちづくり

⇒超高齢化社会の到来を見据えた、コンパクトで、にぎわいと包摂力のある「医」「職」「住」集積型復興まちづくりの推進を目指す 16

# 津波復興拠点を核とした地域包括ケアの展開



▶ R石巻駅周辺に保健・福祉・医療・介護・行政・防災等の拠点を集約整備し、災害時の市民・来訪者の避難及び市民生活の復旧支援を迅速かつ確実に実施

▶ 市立病院と関係機関が連携し、市内各地で展開する地域包括ケアシステムを総括

▶ (仮称) ささえあいセンターを多職種連携・交流の拠点とし、包括ケアの効果が市内全域に行き渡ることを目指す

▶ これらの施設を市役所庁舎と歩行者デッキで連結し、相互の連携強化



# 市街地再開発事業等による住宅の整備



- 市街地再開発事業等の住宅整備による**定住人口増加**
- 今後、7つの**優良建築物等整備事業**が実施され、**新たな賑わいと人口増加が期待**



**立町二丁目5番地区(H28.9竣工)**  
【用途】分譲住宅32戸、公営住宅21戸  
商業・福祉施設

【ASATTE(アサッテ)】  
復興公営住宅の1階が石巻のお土産販売や  
レストランとなっており、多世代が集い、交流し、  
街の賑わいが回復

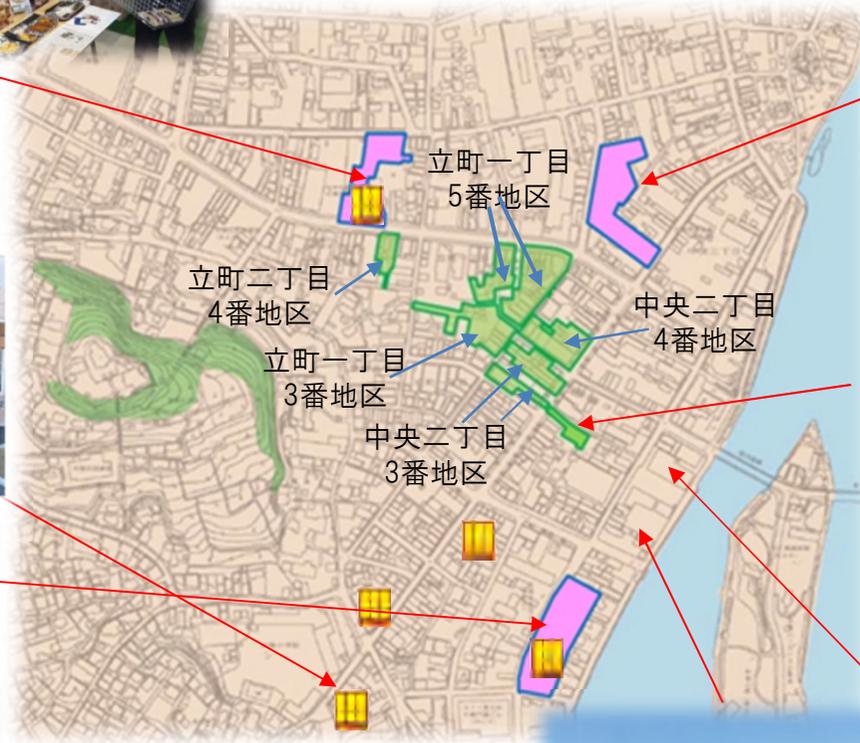


**中央三丁目1番地区(H28.1竣工)**  
【用途】分譲住宅:77戸、商業施設

【老人福祉センター寿楽荘】  
復興公営住宅の1階部分に舞台付きの集会室、  
娯楽室や浴室を整備し、健康づくり、介護予  
防、高齢者の生きがいがづくり



石巻市老人福祉センター 寿楽荘



**中央二丁目7番地区(松川横丁)**  
H27.9グランドオープン  
住宅:4戸、商業施設



**中央一丁目14・15番地区(H28.9竣工)**  
【用途】分譲住宅:25戸、公営住宅:54戸  
商業・福祉施設等

【いしのまき元気いちば】  
地元産の野菜・鮮魚等の販売及びレストランがあり、  
車移動が困難な高齢者にとって、買物の利便性が向上

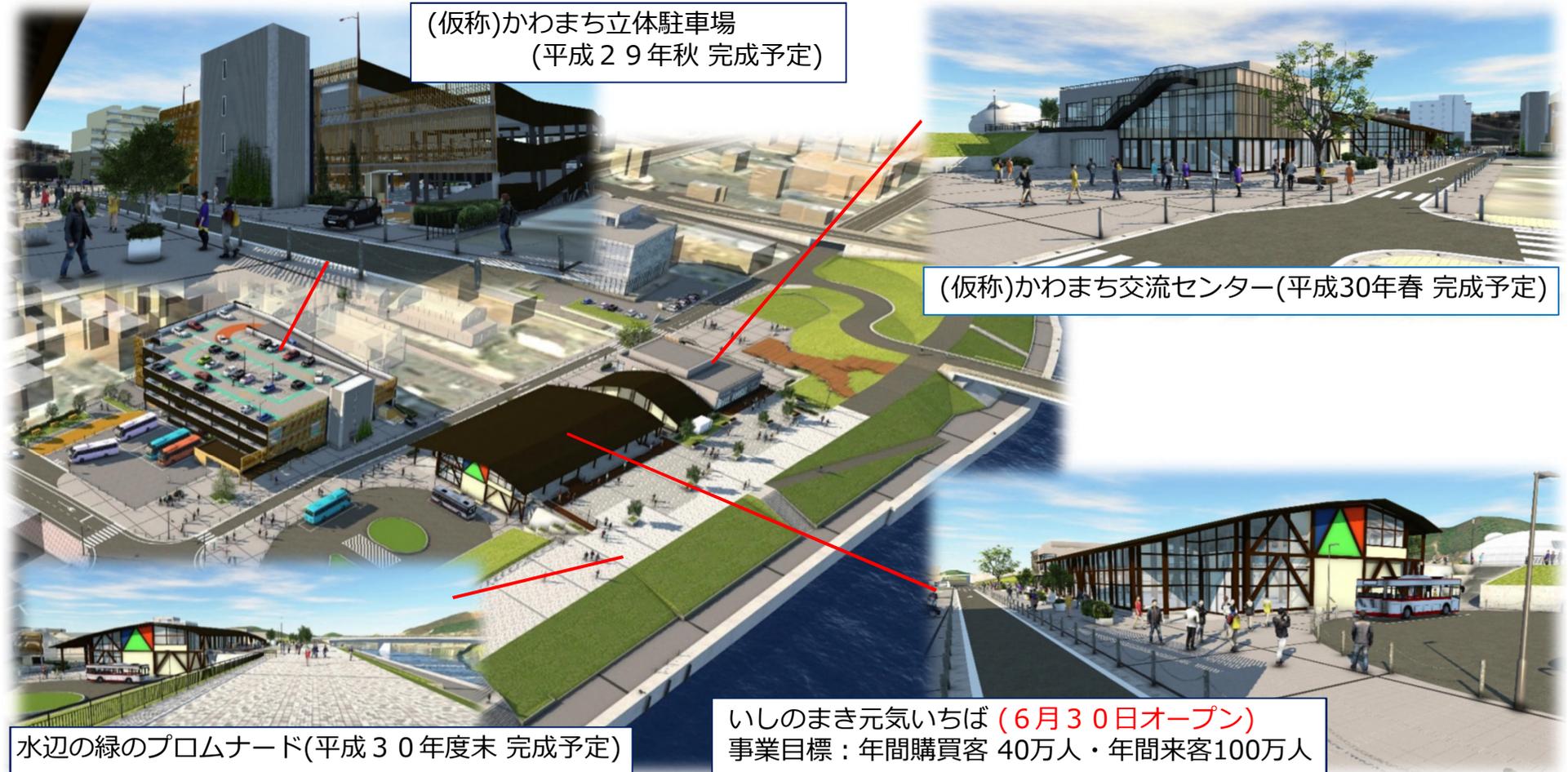


# 中心市街地のにぎわいを生み出す

## かわまち交流拠点整備



- ・ 水産業界の**販路開拓貢献**及び**農産品の振興**
- ・ 観光客だけでなく、市民全体(特に中心市街地)の買物等の**利便性向上**
- ・ 来訪者にとって魅力あふれる場とし、**三陸エリアのゲートウェイ**として**交流人口を拡大**
- ・ 川湊として栄えた歴史を踏まえ、プロムナードの整備によって、**賑わいの空間を創出**



# 石巻市複合文化施設整備事業

企業版ふるさと納税活用



○音楽やミュージカル、演劇等が行えるホール、市民ギャラリーとしての生涯学習機能や、石巻の歴史・文化の展示を行う博物館機能を備えた複合文化施設を整備

○文化芸術の発信・創造・継承の拠点として活用

○近隣の市町と連携した様々な企画を戦略的に実現させ、リピーター獲得やイベント開催時の集客力を向上し、継続的な人の流れを呼び込み、交流人口の拡大を実現

○平成28年8月に地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)活用のための地域再生計画を策定し、国の認定 (H28実績:3社 150万円、H29実績:3社 100万円)



【被災した石巻文化センター】

【平成32年度オープン予定】



【被災した石巻市民会館】

## <施設規模・機能>

- ・ 建築延床面積 : 13,182㎡
- ・ 大ホール : 1,250席
- ・ 小ホール : 300席
- ・ 市民ギャラリー
- ・ 展示・収蔵庫 等

20

# 石巻南浜津波復興祈念公園整備



- 県内唯一の国、県、市の連携による復興祈念公園
- として、犠牲者への追悼と鎮魂の場を構築し、震災の経験と教訓を後世に伝承
- 平成29年3月19日起工(平成32年度完成予定)      ○ 総面積 38.8ha





- ・震災以降、復興支援やボランティア等で本市を訪れた方との新たな絆を大切にし、交流を継続するとともに、受入基盤整備による移住促進を図る。
- ・DMOによる戦略的な観光客誘致やインバウンド増加に向けた企画・誘致を積極的に推進し、交流人口の拡大を図る。



# 地域の価値を高め、 新たな魅力と活力ある街の創造



総合芸術祭

新たな魅力と活力の創造

かわまちづくり

スポーツ交流推進



# 文化芸術活動の推進による人との豊かなふれあい



「アート」「音楽」「食」を楽しむことができる  
リボーンアート・フェスティバル



名和晃平の作品

Photo:Yukihide Nakano



小林武志×WOW×DAISY BALLON Photo:Yukihide Nakano



草間彌生「真夜中に咲く花」



REBORN  
ART  
FESTIVAL  
2017 開催

7月22日から9月10日までの51日間、石巻市牡鹿半島を主会場に、世界中の有名アーティストたちと地元のみなさんが一緒に作り上げた作品が展示され、これまでの音楽フェスの概念を変えるライブが開催され、さらに、日本最高峰のシェフや東北の料理人による食事を味わうことができます。

# 街に賑わいを取戻すために

○ベガルタ仙台との復興支援連携協定  
(2016.4.22)

○(株)楽天野球団とのスポーツ交流  
活動等に関するパートナー協定  
(2017.12.16)

○いしのまき復興マラソン



○Reborn-Art Festival  
2017(7.22~9.10)

○TRANSIT Reborn-Art  
2018(8.4~9.2予定)

**アート、音楽、食を柱と  
する新しい総合芸術祭**

○ツール・ド・東北(2013~)、グループ  
ライド、通年型のサイクルツーリズム  
の推進

サイクル  
ツーリス  
ム



スポーツ

総合芸  
術祭

インバ  
ウンド



○大型クルーズ船  
石巻寄港:ダイヤモンド・プリンセス、MSCスプレ  
ンディダ

# 超高齢化・人口減少社会における 持続可能な都市・地域の形成（まとめ）

## 1. 東日本大震災からの復興まちづくり

東日本大震災により、人口減少が急速に進行する地域が点在する一方、中心部においても郊外への人口流出が進むことにより、街の活力が失われている。本市では、公共交通機関の結節点である石巻駅周辺に都市機能を集積・高度化して中核拠点形成するとともに、中心市街地への街なか居住による定住人口の回復やかわまちづくりと連動した賑わいと安らぎのあるコンパクトな街づくりを進める。

## 2. 地域包括ケアの展開

超高齢化社会を迎えるに当たり、市民の誰もが安心して健康かつ笑顔で暮らしていくためには、医療、福祉、介護に不安のない街づくりが必要です。そのため、中心市街地の石巻駅周辺に行政、防災、医療、福祉及び交流の拠点整備を進めるとともに、総合支所を中心とした地域の拠点づくりを進め、地域交通と地域包括ケアのネットワーク化を図りながら、地域全体で支え合うまちづくりを推進する。

## 3. 定住人口の拡大を目指して

本市においては、若者の人口流出により、今後、地域経済や地域社会の停滞に深刻な問題を引き起こす恐れがあることから、結婚から子育てまでの切れ目のない支援や子どもたちの健全な育成のための支援について、ハード・ソフト両面から各種施策を実施し、子育てしやすい環境づくりを推進する。